

図書館だより SAKUらいし

作新学院大学

令和6年3月号

作新学院大学女子短期大学部 図書館

110

NIEと図書館

人間文化学部 特任教授 木村直人

(日本新聞協会 NIE アドバイザー)

教育界と新聞界が協力して取り組んでいる「教育に新聞を **Newspapers In Education**」という活動がある。

これからの時代を生きていく子どもたちには、生活や社会の中で課題を見つけ、その解決のために行動する力を育むことが求められている。そのためには、膨大な情報が行き交うネット社会で、正しい情報を取捨選択し、読み解く情報活用能力が必要となるが、新聞はその最適な教材であるといわれている。

ところが、いまや新聞は、講読者数が減少し、情報源としての比重が低下しているのではないかと指摘がある。しかし、2023年8月のNIE全国大会スローガンは「ICTでひらくNIE新時代」、2024年2月のNIE教育フォーラムのテーマは「学校図書館×新聞～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」と、現代における学校図書館の役割や、新聞活用の可能性について、研究と実践をすすめている。奇しくも、2023年11月30日(木)の、本学と下野新聞社との連携講義「マスコミ論」のテーマは、「デジタル時代の新聞社～その役割と可能性～」(若菜英晴代表取締役社長)であった。

各新聞社自体が10年以上前から新聞の電子化を着々と進めており、新聞は新聞紙だけの時代ではなくなってきている。

本学図書館は、新聞約30紙(国内紙約20紙)を有し、また地域に密着したきめ細やかな記事と国内外のビジネス情報を統合した「下野新聞データベース plus 日経テレコン」を契約している。学生の皆さんには、レポートや論文作成のための情報収集、調査・研究にぜひ活用し、これからの社会を生きていくうえで必須のメディアリテラシーを確かなものにしてほしい。

なお、下野新聞社の動画サイトには、本学図書館の紹介動画が公開されている。

令和5年12月6日、木村直人特任教授の授業「現在社会の諸問題 B」を図書館にて行いました。

授業のねらいは、インターネットが普及した現代における図書館活用の重要性を知るというものです。根拠の明確な情報を入手する方法や日常的に利用している検索サイトとは異なるデータベースを図書館で利用することを目的としました。

図書館職員より、書籍の分類番号である「請求記号」やオンライン蔵書目録「OPAC」の説明があり、学生は自分の知りたい内容の書籍がどこに配置されているかを学びました。また、「下野新聞データベース plus 日経テレコン」を使って資料検索を行いました。



以下は授業後に聞かれた学生の感想を抜粋したものです。

・本日の授業で、図書館はなんのためにあるのか、図書館の利用方法について、デジタル化が進んでいく中での図書館の在り方、文献等の取り扱いについて確認することが出来ました。

・大学の図書館でOPACという機能を使うことにより、どこに自分が探している本があるかを明確にすることができるので、活用していきたいと感じました。

・インターネットは家に居ながら多くの情報を得ることが出来る反面、膨大な情報の中から自分に必要なものを選択するのに悪戦苦闘したので、もっと早くから図書館を利用すれば良かったと思いました。

人々の行動制限が緩和された今年度。
キャンパスにも活気が戻ってきました。
図書館でも対面による授業が行われ、
学習に取り組む学生の姿が
たくさん見受けられました。

開館カレンダー3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

午前9:00～午後6:00

休館日